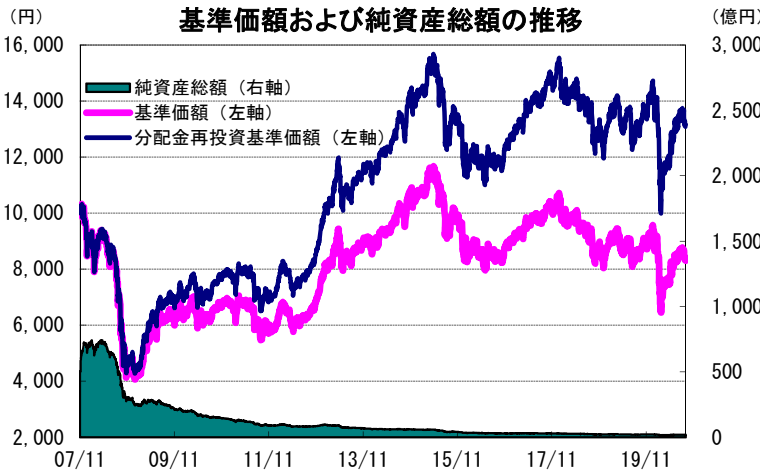


スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)

基準日 2020年09月30日



* 当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 * 当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

設定日	2007年11月30日
信託期間	2027年11月10日まで
決算日	毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各10日(休業日の場合は翌営業日)

基準価額	8,363円
純資産総額	18.16億円

ファンドの資産配分	
SPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンド	96.3%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.6%
現金等	3.1%

【ご参考】

基準価額変動の要因分解(月次ベース)

基準価額変動金額			金額
内訳	株式等	アジア太平洋地域	-337円
		中東地域	-8円
		為替	20円
		その他	-157円
	合計		-482円

* 金額は対象期間における基準価額(分配金込み)の変動を表したものです。
 * 上記は参考情報として当社が算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

* 基準価額は信託報酬控除後の値です。信託報酬には、投資対象とする投資信託を含みます。
 * 分配金再投資基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の投資家利回りとは異なる点にご留意下さい。

騰落率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
	-3.53%	4.78%	21.18%	1.81%	-6.93%	31.68%

* 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し、計算しています。

分配金実績(税引前)

決算期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
	18/11/12	19/1/10	19/3/11	19/5/10	19/7/10	19/9/10	19/11/11	20/1/10	20/3/10	20/5/11	20/7/10	20/9/10
分配金	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円
分配金累計	直近12期計		設定来合計									
	540円		3,495円									

ポートフォリオの配分

国・地域別配分

	国・地域	比率	比率
アジア太平洋	香港	23.9%	95.3%
	台湾	18.4%	
	中国	17.7%	
	オーストラリア	14.3%	
	その他	21.0%	
中東	UAE	1.3%	1.7%
	サウジアラビア	0.4%	
現金等	—	3.0%	3.0%
合計		100.0%	100.0%

通貨別配分

	通貨	比率
1	香港ドル	38.0%
2	台湾ドル	19.0%
3	豪ドル	14.7%
4	韓国ウォン	8.6%
5	中国元	4.7%
	その他	15.0%
	合計	100.0%

業種別配分

	業種	比率
1	情報技術	22.4%
2	金融	18.0%
3	一般消費財	15.3%
4	生活必需品	13.4%
5	コミュニケーション	10.1%
	その他	20.8%
	合計	100.0%

* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

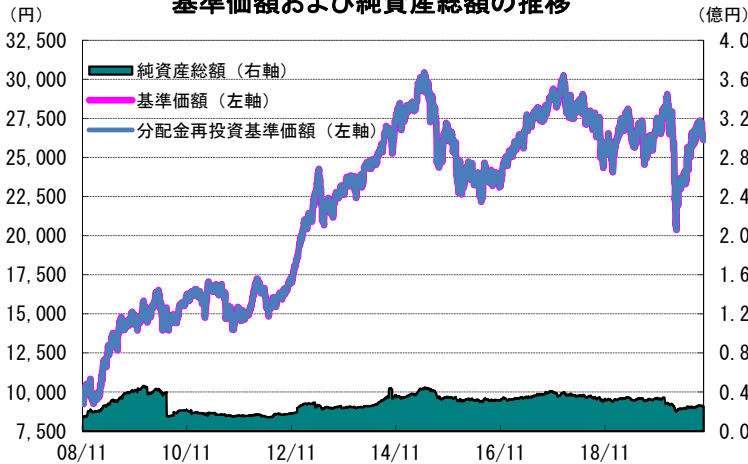
* スパークス・アジアの内部データを元に、スパークス・アセット・マネジメントが作成。
 * 比率はSPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
 * P-NOTEやADR等に投資している銘柄の通貨は、現地通貨ベースで算出しています。
 P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことです。
 ADRとは、主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことです。

■ 当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■ 当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■ 投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■ 投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■ 当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■ 当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■ 当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■ 当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■ 当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(資産成長型)

基準日 2020年09月30日

基準価額および純資産総額の推移



* 基準価額は信託報酬控除後の値です。信託報酬には、投資対象とする投資信託分を含みます。
* 分配金再投資基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の投資家利回りとは異なる点にご留意下さい。

騰落率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
	-3.31%	4.92%	19.59%	1.94%	-5.80%	162.81%

* 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し、計算しています。

* 当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
* 当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

設定日	2008年11月12日
信託期間	2027年11月10日まで
決算日	毎年11月10日 (休業日の場合は翌営業日)

基準価額	26,281円
純資産総額	0.25億円

ファンドの資産配分	
SPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンド	90.8%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.0%
現金等	9.2%

【ご参考】

基準価額変動の要因分解(月次ベース)

基準価額変動金額			
内訳	株式等	アジア太平洋地域	-672円
		中東地域	-15円
		為替	40円
		その他	-254円
	内訳	その他	-254円
基準価額変動金額			-901円

* 金額は対象期間における基準価額の変動を表したものです。

* 上記は参考情報として当社が算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

分配金実績(税引前)

決算期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
	10/11/10	11/11/10	12/11/12	13/11/11	14/11/10	15/11/10	16/11/10	17/11/10	18/11/12	19/11/11
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

分配金累計	直近10期計	設定来合計
	0円	0円

ポートフォリオの配分

国・地域別配分

	国・地域	比率	比率
	アジア太平洋	香港	23.9%
台湾		18.4%	
中国		17.7%	
オーストラリア		14.3%	
その他		21.0%	
中東	UAE	1.3%	1.7%
	サウジアラビア	0.4%	
現金等	-	3.0%	3.0%
合計		100.0%	100.0%

通貨別配分

通貨	比率
1 香港ドル	38.0%
2 台湾ドル	19.0%
3 豪ドル	14.7%
4 韓国ウォン	8.6%
5 中国元	4.7%
その他	15.0%
合計	100.0%

業種別配分

業種	比率
1 情報技術	22.4%
2 金融	18.0%
3 一般消費財	15.3%
4 生活必需品	13.4%
5 コミュニケーション	10.1%
その他	20.8%
合計	100.0%

* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

* スパークス・アジアの内部データを元に、スパークス・アセット・マネジメントが作成。
* 比率はSPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
* P-NOTEやADR等に投資している銘柄の通貨は、現地通貨ベースで算出しています。
P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことです。
ADRとは、主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことです。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2020年09月30日

組入上位銘柄

組入銘柄数	39
-------	----

NO	銘柄名	Pnote	国・地域	業種	組入比率	配当利回り
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd		台湾	情報技術	7.8%	2.5%
2	AIA Group Ltd		香港	金融	7.4%	1.7%
3	Tencent Holdings Ltd		中国	コミュニケーション・サービス	6.6%	0.3%
4	Transurban Group		オーストラリア	資本財・サービス	5.3%	2.9%
5	Samsung Electronics Co Ltd		韓国	情報技術	5.1%	2.5%
6	MediaTek Inc		台湾	情報技術	4.9%	2.2%
7	CSL Ltd		オーストラリア	ヘルスケア	4.5%	1.0%
8	Hong Kong Exchanges & Clearing Ltd		香港	金融	4.3%	2.1%
9	KWG Group Holdings Ltd		香港	不動産	3.7%	7.7%
10	Aristocrat Leisure Ltd		オーストラリア	一般消費財・サービス	3.4%	0.1%

* 上記の銘柄の中には現株を含みます。
 * 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 * 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

* 比率はSPARKX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
 * 配当利回りは12ヶ月配当利回り(税引前)です。
 * 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

地域別組入上位銘柄の概要

アジア・太平洋地域

アジア太平洋	銘柄名	Pnote	国・地域	銘柄概要
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd		台湾	台湾積体回路製造 [TSMC/台湾半導体] (Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Ltd.) は半導体メーカー。ウエハー製造、プロービング、組み立て、テストのほか、マスクの製造、設計、関連サービスを提供。同社の IC (集積回路) はコンピュータ、通信、消費者向け電子製品、自動車、産業機器などに使用される。
2	AIA Group Ltd		香港	友邦保険控股 [AIAグループ] (AIA Group Ltd.) は生命保険および金融サービス会社。個人・企業向け生命保険、傷害疾病保険、年金プランならびに健康管理サービスを提供。
3	Tencent Holdings Ltd		中国	騰訊 [Tencent Holdings Limited] は投資持株会社。中国、米国、欧州などのユーザーにインターネットおよびモバイル付加価値サービス (VAS)、オンライン広告サービス、電子商取引サービスを提供する。
4	Transurban Group		オーストラリア	トランスアーバン・グループ (Transurban Group) は道路建設会社。Melbourne City Linkと有料道路 Hills Motorway M2 を運営する。料金所システムの電子化と設営も手掛ける。
5	Samsung Electronics Co Ltd		韓国	サムスン電子 (Samsung Electronics Co., Ltd) は電子機器・電気製品メーカー。半導体、パソコン、周辺機器、モニター、テレビなどをはじめとする民生用ならびに産業用電子機器・製品を製造、販売。エアコン、電子レンジなどの家電製品や、インターネット・アクセス・ネットワーク、携帯電話などの通信機器システムも製造する。

中東地域

中東	銘柄名	Pnote	国・地域	銘柄概要
1	First Abu Dhabi Bank PJSC		UAE	ファースト・アブダビ・バンク (First Abu Dhabi Bank PJSC) は銀行。預金、個人向けローン、e-バンキング、貿易金融、外貨取引、その他の銀行サービスを手掛ける。世界各地で事業を展開。
2	Saudi British Bank/The		サウジアラビア	サウジ・ブリティッシュ・バンク (Saudi British Bank) は、預金業務、リテールおよびコマース・バンキング・サービスを提供。消費者・シンジケートローン、仕組み債、プロジェクト金融、証券仲介、ファイナンシャル・プランニング、プライベート・バンキング、ミューチュアルファンド、ファクタリング、財務サービスなどを手掛ける。

* 上記は個別銘柄の取引を推奨するものではありません。
 * 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。
 * 出所: 各社ホームページ

* 上記はSPARKX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドの組入上位銘柄です。
 * ADRとは主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことであり、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2020年09月30日

コメント

■市場環境

《アジア株式》

当月、アジア株式市場のパフォーマンスは軟調に推移しました。

韓国、台湾などの株式市場は底堅く推移しましたが、インドネシア、タイ、香港などは軟調に推移しました。

注目の的となったのは、当月も新型コロナウイルス感染拡大と米中両国間の対立でした。新型コロナウイルス感染拡大の第二波に対する懸念から、アジア地域の多くで経済活動が引き続き停滞しました。ただし、中国は国内旅行も含め、経済活動が概ね回復基調にあります。米中両国間の緊張はさらに高まり、米国は中国の半導体受託生産最大手企業のSMIC社を規制リストに追加しました。SMIC社に対する発注分が台湾と韓国の企業に振り向けられる可能性があることから、台湾と韓国の半導体受託生産企業が短期的に恩恵を受ける可能性があります。

韓国政府も7月に「グリーンニューディール政策」を発表し、再生可能エネルギーとクリーンテクノロジーに多額の投資を行って、環境事業主導で経済活動の回復を後押ししています。

香港では新規株式公開（IPO）の動きが引き続き活発で、米国に上場する中国企業の米国預託証券（ADR）が香港で重複上場を模索するケースが増えています。間もなく上場予定のAnt Financial社は広く投資家の関心を呼ぶと思われる。

ASEAN諸国の株式市場は、引き続き残長に推移しました。タイの反政府デモによって、景気回復に関する先行き不透明感が一段と強まる可能性があります。

《中東株式》

当月、中東株式市場のパフォーマンスはまちまちでした。

サウジアラビアでは、国内総生産（GDP）が2020年第2四半期（4-6月）に前年同期比7%減となり、失業率も上昇したにもかかわらず、株価は堅調に推移しました。原油価格は下落して月を終えました。

《通貨》

当月、アジア地域の通貨は、対日本円でまじまじの値動きをみせました。

韓国ウォン、台湾ドル、中国人民元などが対日本円で上昇し、オーストラリアドル、インドネシアルピア、タイバツなどが対日本円で下落しました。

■運用状況

《アジア株式》

当月、当ファンドが保有する株式のリターンは、マイナスとなりました。

セクター別では、情報技術セクターなどがプラスに貢献し、一方で、金融セクター、コミュニケーションサービスセクター、生活必需品セクターなどがマイナスに影響しました。

国別では、台湾、韓国などがプラスに貢献し、香港、中国、インドネシアなどがマイナスに影響しました。

個別銘柄では、Mediatek Inc（台湾/情報技術）、Samsung Electronics（韓国/情報技術）、Taiwan Semiconductor Manufacturing Company（台湾/情報技術）などが、プラスに貢献しました。一方で、AIA Group（香港/金融）、Hong Kong Exchanges & Clearing（香港/金融）、KWG Group Holdings（中国/不動産）などが、マイナスに影響しました。

当ファンドが今年新たに組み入れた銘柄の一つに、New Oriental Education & Technology Group（中国/一般消費財）があります。同社は中国最大級の民間教育事業者で、設立は1993年、当初は留学生向け英語講座だけを開設していましたが、その後幼稚園から高校卒業までを対象とする学習塾に事業を拡大し、現在は中国全土で1,400カ所以上の教室と学習塾を運営しています。

アジア地域の文化の中では、教育はきわめて重要な位置を占めており、受験に失敗すると「大きな代償」を伴うことから、ブランドの信頼性の高さは強力な武器になります。

同社の歴史は長く、質の高い英語教室と学習塾を長年にわたって運営してきた実績があります。同社の学習塾に通っていた保護者の多くが自分の子供も同社の塾に通わせていますが、これはブランドの信頼性が高い証だと言えるでしょう。それは同様に、同社の価格決定力が強力であることの証でもあります。同社は漸次値上げを行って、コストの上昇分を補うことができます。

当ファンドの日本と韓国での経験によると、教育費は所得の増加に従って増加していきます。中国は学習塾の普及率が約35%に留まっており、韓国（75%超）、日本（50%超）と比べて低水準です。当ファンドでは、中国の学習塾市場は今後5-10年間で年間10-12%の成長を予想しています。また、学習塾セグメントは現状ではきわめて細分化されています。同社と業界2位の会社の大手2社を合わせても市場シェアはわずか7%で、事業を展開しているのはほとんど中国の一線都市（市場としての魅力が最も高い大都市）と二線都市（一線都市ほどの規模はないが発展の余地が大いにある魅力のある都市）ばかりです。大手企業が中小都市に進出すると、小規模企業はブランド、教師の質、価格の点で太刀打ちできなくなると予想されます。そうすると市場の統合が一段と進み、同社はさらに恩恵を受けることになるでしょう。

同社は中小都市への進出を見越して「教師二人方式」を導入し、主任講師が複数都市の複数の教室にライブで授業を配信する体制を整えました。教室にはそれぞれ現地の講師も待機していて、生徒の補佐にあたります。この方式を採用すると料金を中小都市に見合った額に引き下げることができ、また大都市の優秀な講師の授業をライブ配信することで、授業の質を確保することもできます。それによって規模の効果が生まれ、同社の利益確保に一役買うことになります。

(次ページへ)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2020年09月30日

コメント

(前ページより)

中国では、「コロナ危機」の影響で教室の大部分が2月から5月にかけて閉鎖されましたが、同社の発表によると夏の登録者数は順調だったようです。したがって、新型コロナウイルスの感染状況が改善すれば、登録者数は再び増加すると考えられます。

同社は予想PERが35倍、株主資本利益率(ROE)が17%、時価総額に占めるネットキャッシュの比率が60%で、長期的な成長余地が高いことから、リターン特性は魅力的であると、私どもは考えます。

当ファンドは、引き続き既存の投資先を注視し、また今後の投資先候補の企業に関する調査も継続することで、優れたビジネスモデル、良好なバランスシート、持続的な成長の見通しを備えた「優良企業」を選別してまいります。

《中東株式》

当月は、First Abu Dhabi Bank (アラブ首長国連邦/金融)とSaudi British Bank (サウジアラビア/金融)が、世界的な投資家心理の悪化を受けて、当ファンドのパフォーマンスにマイナスに影響しました。ただし、両行は自己資本比率が高く、不良債権が増加しても緩衝材の役割を果たします。短期的には、減配によって手元資金の確保と自己資本比率の維持を図る可能性があります。

《通貨》

当月、アジア地域および中東地域の通貨は、対日本円でまちまちの動きを見せましたが、当ファンドのリターンに若干プラスに貢献しました。

■今後の見通し

《アジア株式》

「K字型回復」というのは2020年上半期(1-6月)の「コロナ危機」に起因する市場の調整後、セクター間のパフォーマンスの格差が拡大してきている状態を言い表した言葉です。eコマース、オンラインサービス、ヘルスケア関連企業といった「ニューエコノミー銘柄」が力強い成長を見せた一方で、小売、航空、レストラン、銀行といった一部のセクターは利益の確保に苦しんでいます。各国政府による支援は苦境に陥っている企業を存続させる上で不可欠な役割を果たしてきましたが、支援措置の多くは今後数ヶ月で終了します。そこで一部の措置を延長して経営破綻と失業を回避してはどうかという議論があり、各国政府が財政政策と金融政策の両面からできる限り支援を続けると、当ファンドでは予想しています。新型コロナウイルスワクチン開発に関して好ましい展開があれば、投資家心理は好転するでしょう。

米中両国間の緊張は、米国の大統領選挙以降も続く可能性が高いでしょう。グローバリゼーションや貿易がなくなるわけではありませんが、米国も中国も新たな貿易環境に適応してきていることから、今後数年内でサプライチェーンの再編が進むでしょう。中国は、半導体、人工知能(AI)、ソフトウェアなどの分野で、自前の先端技術の確立を目指すでしょう。アジア地域の国々は、米国企業が発注先を中国以外の国にシフトすることで恩恵を受ける公算が高いと思われます。インドとASEAN諸国には、特定の製造分野で中国からシェアを奪う兆しがみられます。

人口構成による下支え、消費行動の変化、インフラ支出、新たなセクターやマーケットの発達といったアジア地域の構造的トレンドは、長期的な投資を行って利益を獲得する機会を潤沢に提供してくれるでしょう。

私どもは、消費、インフラ、技術革新といった長期的テーマの恩恵に浴する優良企業に注目することで、不確実な情報に惑わされて不合理で短絡的な取引をすることのないように心掛けてまいります。アジア地域はこうした長期的かつ構造的なトレンドを活かせる質の高い投資先候補銘柄が多数存在する有望市場であると、私どもは考えます。

《中東株式》

原油市場の価格変動が激しく、地政学的リスクがあることから、当ファンドは中東の株式市場を慎重に見ています。

「コロナ危機」によって経済成長は失速し、失業率が上昇しました。経済成長の減速や政府の財政収支の悪化は依然として投資家心理に影を落としています。銀行セクターは短期的に不良債権への圧力に直面する可能性があります。長期的には、銀行セクターのM&A(企業買収・合併)が引き続き中東地域の主な投資テーマの一つになるでしょう。当ファンドは、金融セクターの保有銘柄を引き続きポジティブに見ています。

《通貨》

通貨は、短期的には資本フローの影響によって大きく変動すると思われませんが、長期的観点で見ると、アジア地域および中東地域の経済のファンダメンタルズに力強さがみられることから、両地域の通貨は対日本円で上昇すると、私どもは考えます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の首様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。